学年

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
中学１年	個性と主体性を尊重し、自分で考え、判断し、行動する力をはぐくむ。 基本的生活習慣・学習習慣を確立し、学力向上をはかる。 友達と協力して学校生活を過ごし、周囲への思いやり、誠実、感謝の心をはぐくむ。	あらゆる学習の場で自分を超えて勉学し、自己の能力を開発し、知性の向上に励む態度を養う。	A	何事にも真剣に取り組む姿勢を養うことができた。
		家庭学習の時間を確保し、課題・小テストに誠実に取り組み、計画的に学習に取り組む姿勢を養う。	B	生徒の背景を見たうえで、効果的な指導方針を考える 学習ペースがつかみきれない生徒のケアの充実
		学級会活動、学校行事などに積極的に取り組み、ルールを守り仲間と協力して物事に取り組む姿勢を養うとともに、他人を思いやる心を育てる。	A	積極的に行事に取り組み、ルールを守って互いに協力することができた。
		祈る心、祈る習慣を養い、自分がかけがえのない存在であることに気づき、「真理」を求める心、「善いもの」を愛する心、「美しいもの」に憧れる心を育てる	A	朝終礼を大切にできたが、今後も成長に応じての指導を継続する。
		自分の考えをしっかりと持ち、それを伝える力の養成	B	弁論大会をさらに充実させる

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
中学２年	学習習慣・生活習慣の確立をはかる。周囲と協力しながら自分の役割を果たし、学校生活や団体行動を円滑に行うことができるようにする。意欲・行動力を高める。	学力推移調査や試験週間の生活記録をもとに、生活状況を正確につかむ。面談等を利用して解決策を具体的に示し、学習時間の確保と無理のない生活リズムの定着をはかる。	A	家庭学習の質を高めることを考える。教科に応じて、段取り を立てて学習できるようにする。
		日々の宿題や小テストのチェック、再提出・再テストの実施を徹底し、予・復習の習慣化、学力の定着・向上をはかる。家庭との連絡を密に取ることで円滑化を	A	学習意欲が低下する生徒に対するフォローは担任以外からも色々と働きかける。
		学校行事への取り組みで、他者と協力したり、意見を交換したりする機会をつくり、班やクラス単位での完成を目指す中で、協調性や主体性を育成する。	A	交友関係がもつれ、悪化した場合の軌道修正は保護者と連携しながら行う。
		研修旅行を通して、平和やキリスト教への理解を深め、感謝の心の育成につなげる。また、5分前行動を徹底させることにより、円滑な団体行動ができるように	B	わがままな発言や行動はしない、許されない、という共通認識を確認。
		自分の考えをしっかりと持ち、それを伝える力の養成	B	弁論大会での発表をさらに充実させる。

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
中学３年	学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ学ぶ意欲を向上させる。興味、関心に基づき勤労観、職業観を形成する。他者を尊重し、円滑な人間関係を進める。	職業体験を通して勤労観を育成するだけではなく、ともに働く人たちと円滑な人間関係が形成できるよう、マナーや配慮を身につける。	A	社会における自分を意識させ、自分を客観的に見られるようにする。
		社会で活躍する人を講師として招き、職業観を育てるとともに、自らの充実した将来設計に役立てる。	A	キャリアガイダンスの入り口として、自分の将来を考える契機を設定する。
		研修旅行を通して、見識を広げるだけではなく、集団の中でルールを守って他者に配慮しながら行動する姿勢を養う。	B	見聞を広め、自分の将来像をいくつかイメージできるように する
		各種の検定や模擬試験を積極的に受験し、向上心を持って意欲的に学習する基本的姿勢を身につける。	B	新大学入試に向けての取り組みを行う。

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
高校１年	基本的生活習慣の確立と自主・自立の精神を養う。 主体的学習態度の確立と学習習慣の定着を図る。 進路目標の明確化を図る。	身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、弁えた行動ができるように指導する。また欠席、遅刻への指導を徹底し、規則正しい生活をさせる。	B	社会で通用する言葉遣い、身だしなみを分かる。
		清掃指導を徹底し、奉仕の精神を養う。また、学校行事や宗教の授業、HR活動を通して、相手を尊重する心や協力し合う姿勢を育み、個人及び集団の成長を図る	A	校内だけにとどまらず、もっと外にも目を向けられるような生徒を育む。
		授業の重要性を認識させ、家庭学習の時間確保および学習習慣の確立を図る。また、小テストの実施や課題提出によって、学力の定着・充実を図る。	A	自分から目的意識を持って取り組もうとする生徒の育成が課題。
		文理選択については、面談を通して生徒個々の把握に努め、適性に応じた指導を行う。また大学体験、進路講演、HR活動をを通して、高い進路の意識付けを行う	A	今後も「生徒への関わり」を大切に、より一層進路目標の具体化及び明確化は図る。
		課題を自分たちで見つけ、それを解決する方策を考え伝える、というプログラムを行う。	A	地域の課題、をテーマにして問題解決に取り組む。

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
高校２年	自ら考える力を育成するとともに、学力の向上を図る。 自分の将来について主体的に考える力をはぐくむ。 修学旅行等を通じて、異文化・異地域の理解と共感的態度を育成する。	様々な職業人を外部講師として招聘し、生徒の進路選択に役立てる。また、様々な校外活動にも積極的に参加させ、進路を考えさせるとともに自主性を培う。	B	事前事後指導の充実と、生徒の加重負担とならないような配慮が必要。
		修学旅行（フランス・北海道）を通じて、異文化・異地域を理解するとともに、そこで暮らす人々に対して共感的に接する態度を育成する。	A	「旅行」のための、ではなく、「修学」のための事前指導の充実が今後の課題。
		学級会活動、学校行事などを通じ、自主的主体的に物事に取り組む姿勢を養うとともに、他人を思いやる心を涵養する。	A	教師の「生徒への関わり方」について、さらなる研鑽を積む必要がある。
		宿題等の課題を精選し、自主的主体的に勉強に取り組む姿勢を育てる。	B	生徒が自主的主体的に勉強に取り組むための仕掛けの構築が今後の課題である。
		女性の社会進出について調べ、自分の職業、将来について考え、インターンシップなどに参加して実際の職場を体験する。	B	

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
高校３年	生徒の将来が開ける進路を保障する。受験生活を通して、生徒が、感謝の心、周囲への気遣い、粘り強い精神力など、今後の人生のベースとなるものを身につけられるよう指導する。	学年教員全員で生徒一人ひとりの受験指導の方針を確認する	A	教員のコンセンサスをとり、指導方針が教員によって違わないようにする。
		受験勉強が忙しくなる中、掃除、挨拶など学校生活をきっちりと行うよう指導する	A	朝終礼や掃除の時間にしっかりと生徒とかかわる。
		クラス全体の雰囲気を高め、自分だけではなくクラス全体を考えた行動ができるよう指導する	B	もっと多くの教員から、色々な方法で生徒に周囲への気遣い、思いやりを伝えていく。
		保護者と密に連絡を取り、生徒のサポート、受験指導などにいかす	A	面談以外にも、できるだけ保護者との連絡を取り合い、生徒の状況・今後の方針について話し合う。

部署

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
事務課	部署間の連携を強化し、個人商店的な仕事のやり方をなくし、円滑に職務を遂行できるよう努める。	前例主義に傾きがちなことにならないよう意識し、業務のスリム化を図るため、積極的に改善する。	A	電子化がスリム化に直結するが、電子化に出来ない業務の改善方法を検討する必要がある。
		部署内完結で終わらず、部署間で情報を共有できる環境にする。	A	共有する情報の線引きも必要である。
		個人に仕事が紐付きにならないよう、仕事の割り振りをする。	B	部署毎の職務内容が異なるため、他部署の業務内容の細部まで掌握できていない。
		学校予算の消化状況や施設設備・備品の状況を正確に把握し、適切な管理を行っている。	A	

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
保健部	保健管理	定期的健康診断の実施	A	インフルエンザが教員間で伝染しないよう意識を高める。
		修学旅行（高校）前検診の実施		
		事後指導の徹底		
		インフルエンザなど教職員・生徒間の伝染を防ぐ		
	環境美化　担任と連携して、生徒がきっちりと清掃をおこなうよう指導	一斉清掃の実施（不定期）	A	細部までてを抜かずに、きっちりと清掃できるようにする。
		清掃道具の充実		
		清掃点検		
	学校安全	日本スポーツ振興センター事務手続きの実施	A	
	環境衛生	教室の照度・空気検査	A	
		水質検査		
		学食食器検査		
	保健委員会	委員会の開催（対生徒）	A	
		委員会の開催（対教員）		

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
体育	運動の楽しさを知り、積極的に運動に取り組む姿勢をとる。体力の増進と健康の保持を図る。	学習カード、ノートの作成による振り返り学習での自己評価とステップアップ。	A	学習カード・ノートの活用種目の整理
		規律を順守する意識付けをする。体育の授業を通じて生徒をよくみて、新たな側面を見いだせるようにする	A	担任との意思疎通
		競技種目ごとに到達目標を設定し、苦手種目の習得や課題達成による喜びを教える。	A	**到達目標の難易度と種類の再考**

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
総務	地震、津波等、非常時における生徒の安全確保。	非常用の食料、簡易毛布など、生徒全員分確保し、備蓄している。地震、津波を想定した避難訓練を行っている。	A	避難時間をさらに早める。教職員の役割分担を明確にする。生徒は黙って行動できるようにする。
	教職員の活動を円滑にし、また無駄をなくす備品使用	備品の管理を徹底し、備品棚の設置場所などを工夫し、無駄をなくす	A	無駄をさらになくすよう工夫する
	教職員の資質向上を図る	研修や授業相互見学を行い、意見交換する。	B	
	私立学校研修会を行い、教員の能力向上をめざす。また、学校全体の向上をはか	８月上旬に私学研修会を開催し、全体会で講演をきき、分科会では各学校からの発表を受け、質疑応答をし、より良い学校をめざす。	A	

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
宗教部	宗教行事を通じて、カトリック精神の理解を図る	聖母祭…聖母月である5月に「神と人とを大切にする聖母の姿に倣う」をテーマに、各クラスで目標を立て、聖母祭当日には御言葉の祭儀を行い、放課後、花束を関係各所に届けることで聖母の生き方を伝える。	A	ミサの意味をしっかり生徒に伝え、積極的にカトリックの考えを伝えていく。カトリックの考えと日常は乖離していないことを意識させる。保護者にも2000年以上の歴史のあるカトリックの普遍的な部分を伝えていく。
		物故者のミサ…死者の月である11月に学校全体で過去1年間の学校関係者で亡くなられた方々のために祈りをささげる。	A	
		クリスマスミサ…カトリックとしては最も大切な行事と言える。待降節より心の花束の準備とカリタスジャパンを通じての世界の恵まれない子供たちへの献金の準備をし、当日のミサを迎える。	A	
		新入生のミサ、修学旅行のためのミサ、進路のミサ、卒業ミサなど、各学年に応じて区切りとなるところでのミサを行う。	A	
	聖書の言葉を身近なものとしてとらえる。	毎週火曜日の朝礼は、聖書朝礼とし、担当者が聖書の一部の朗読と簡単な解釈へのガイドを行い、生徒各自考える材料を提供する。その聖句を各教室に掲示し、ミッションスクールとしての雰囲気づくりを行う。	B	聖書の内容を伝えるために分かりやすく、身近な出来事から内容に入っていく。普遍的な宗教であることを伝える。
	聖書を通してキリスト教的人間観、価値観を学び、正しい判断力や豊かな心を養う。 宗教的活動を通して、祈る心、感謝する心、思いやりの心を育む。	聖書の内容を読みメッセージを伝え、それを自分の生活につなげて考えさせる。絵本、DVD等の資料を活用し、そこに流れている価値観を伝え感じさせる。クラスミサ、ボランティア活動などを行い、祈る心、奉仕する心を体験させる。	A	聖書の話が現実離れせず、自分の生活に結びつけられるよう留意する。興味を持って取り組めるが、奥にあるものを汲み取れるよう導き方を工夫する。実際に各自が体験するので、自分なりに何かを感じ取ることが出来ている。

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
入試対策室	信愛の教育理念に基づき、学習指導および躾指導を中心としたきめ細かな教育活動を展開するに当たり、必要かつ適正な規模の生徒数（学則定員）を確保する。	主に受験学年をターゲットとした情宣活動（プレテスト、学校説明会、入試説明会等）	A	
		学年を問わず、信愛の姿を広く小中学生に知らしめ、その後の活動（説明会等）につなげる活動（フェスタ等）	B	大阪南部地域の開拓
		特に中学生に信愛の中身を知ってもらう、平素の授業見学	B	
		新聞や受験雑誌等への広告掲載およびネットを媒介とした情宣活動（ホームページの更新など）	B	継続的に生徒を送ってくれる塾に対するフォロー
		受験生の指導者とのつながりを増やし、信愛理解をしていただくための塾や学校訪を訪問、塾（学校）対象の説明会	A	教職員の生徒募集に対する意識啓発

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
進路指導部	生徒一人一人を、担任を中心に、教科担当、学年団などチームで支える	学年団が生徒の志望・成績、普段の生活の様子などの情報を共有する	A	進路検討会の充実
		進路検討会で、担任を中心に生徒一人一人の進路検討を丁寧に行う	B	計画的な面接、小論指導
		担任以外にも教科、学年、進路指導部の教員が多面的に生徒とかかわる	A	
	適切な受験指導	生徒に対して簡単に志望を下げさせない指導	A	生徒との面談を質・量ともに増やす
		AO入試、推薦入試の効果的な使用と一般入試に向けてのクラス・学年のモチベーション維持	A	私大受験校決定のプロセスを重視する
		センター試験後、後期試験までの生徒一人一人に応じた受験指導	B	
		６年後の入試改革に向けての対策・研究		27年度より本格的に取り組む
		大学入試問題研究	B	各教科の研究をまとめて担任に配布
	保護者との協働	保護者会にて進路指導方針や有効な進路情報をしっかりと伝達する	A	
		面談等を通して保護者の考えをしっかりと把握する	A	保護者への情報提供の充実
		保護者、教員が協働して生徒の進路意識を高め支える	B	
		進路相談を顧問を通じて、随時行い、保護者・生徒の不安を解消する	B	
	進路意識の向上	進路講演会等を通して早い時期からの進路意識の向上を図る	A	社会の変化を意識させ将来をイメージする
		中学、高校１年時から自分の将来をしっかりと考えさせる	A	高１、高２の大学体験の充実
		大学の様子や実情、受験情報を適切に生徒に伝達する	B	中学の進路意識向上
		講演を通じ、将来の社会の動きを踏まえ、自分の姿をイメージさせる	B	

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
生徒指導部	人権意識を高める	学年団が生徒の志望・成績、普段の生活の様子などの情報を共有する	A	
		カトリックの精神である「唯一性を大切にする」の追求	A	
		担任以外にも教科、学年、生徒指導部の教員が多面的に生徒とかかわる	A	
	生徒の安全を図る	スマートフォンなどインターネット関連の危険性の講座を開催	B	ラインなどでのトラブルを未然に防ぐ
		自転車通学生徒対象の講習会開催	B	事故をゼロにする
		地域、警察など関係諸機関との連携を図る	A	児童相談所などと密な連携
	校則、規律の遵守の意識を高める	社会の中の一人、という意識を日常から意識	A	気遣い・配慮を頃の身の回りから
		身だしなみなどの重要性をしるためのマナー講座開催	A	
		挨拶の徹底	B	人の目を見て、挨拶することを徹底
		学年教員が中心となり、登下校の見回り	B	
	周囲への気遣い、公共の交通機関でのマナー意識向上	バス、電車通学生徒対象の講習会開催	B	電車、バスでのマナー意識向上
		カトリック精神の「見返りを求めず人に尽くす」「物事の奥行きを考える」を日々の生活の中で追求する。	A	

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
衛生委員会	教職員の安全と健康を身体面・精神面の双方から確保し、快適な職場環境を維持	健康を阻害するリスク（疲労、ストレス、メンタルヘルス等）の予防や軽減のため、 ストレスチェック実施、各署と連携して仕事の配分を考慮	B	メンタルヘルスに関する講演など通じて、衛生面をケア
		校内の安全を維持のため毎日の校内見廻り・施錠チェックなど	A	引き続き、見廻りを行う

	具体的目標	具体的方策	評価 年間	本年度の主な課題
SGH運営委員会（27年度より発足）	各学年で、「課題を見つけ、それを解決していくSGHプログラム」を企画・実行	中１・２　弁論大会を通じ、自分の考えの発表	A	
		中３　将来のキャリア教育を含めた職業体験を行う	A	職業体験を通じて、社会との接点を持ち、自分の将来を考える契機となった。
		高１　地域の課題（４分野）の取り組み	A	地域医療：和医大と「和歌山医師の偏在」問題 地域活性化：和歌山大と「市街地活性化」 地域産業：南部町など「梅システムのビジネス化」 地域防災：和歌山県と「津波など防災」 高1学年全員が各グループに分かれて、フィールドワークを行いながら、課題の解決を考え発表。
		高２　女性の社会進出についての取り組み	A	社会で活躍している女性の体験談に加え、実際の企業でのインターンシップ体験を通じ、女性の課題を実感する
		高３　ビジネスモデルについての取り組み		